幼兒教育　第二十卷第七號　大正九年七月十五日發行

# 乳兒幼兒の保護を如何にすべきか

內務省囑託　生江孝之

兒童保護の問題は、今や世界の大問題となつて、いろ〳〵の方面に其運動が起つてゐる。殊に今度の大戰中及戰後には、一層その必要がみとめられて來た。

歐洲に於ては、聯合與國は、戰時中は多額の軍資を要し、また、醫師看護婦等が缺乏してゐた際にも拘らず、兒童保護に對しては、實によく、人と金とを惜まなかつたのである。ことに、胎兒及乳兒の保護といふことに重きを措き、英國のごときは、法律を制定して、この方面に努力した。これは英國のみならず佛國も、ベルギーも同樣で、國事多端の折柄、兒童保護問題には一般に多大の注意を拂つて居つた。

米國に於ては、大戰開始の翌年から、政府竝に民間の有志者が聯合して、この保護事業のために大に努力したのである。ことに顯著なるものは、かの一九一八年の Children's Year (兒童の年) である。卽ち同年四月から一箇年間特に兒童の保護の大宣傳を試みたのである。これは、政府側としては、聯合政府の勞働省內の兒童局、民間側としては國防協會の婦人部が、專らその衝にあたつたのである。その事業の主なるものとしては、先づ乳兒及び幼兒の死亡の減少を計らうといふ事にある。米國では、五歲以下の幼兒が、年々三十萬人死亡する。この中、專門醫師の斷定によれば、十五萬人卽ち全體の半分は、母親の無智及貧困が主なる原因であるといふ事で、これが事實ならば、卽ち一方、母親に對しては、乳兒及幼兒の取扱上に必要なる知識を授け、他方、貧民の賃金を高めてその窮乏をすくはねばならぬ。然る

に、實際問題としては、國の經濟狀態といふものはさう俄かに變更することは出來るものではないので、この Children's Year に於ては、貧民の賃金を增す方の運動は他に讓り、專ら母親の育兒上の知識を增し、無智と不用意からまねく幼兒の死を極力ふせぐといふ事に努力することゝなつた。而して、當局者の考へでは、もしこの運動がよくはこべば、十五萬人の死亡幼兒全部を救ひ得ると迄はゆかずとも、十萬人位の死亡兒(五歲以下の死亡三十萬人と計へられ居る故にその三分の一となる)を、救ふ事が出來るといふわけで、その實現に力をそゝいだのである。

扨、その實際の方法としては、第一に、五歲以下の幼兒の健康狀態を知るといふことである。といつても、あの廣い米國の全體にわたつて調査するといふことは大變な事である。兎に角、比較的徹底的に之を知るために、先づ米國全體にわたつて、五歲以下の幼兒の身長と體重とをはかり、之に生年月日、父母の生地を記入する。これによつて、彼等幼兒の健康狀態を知らうといふのである。しかるに、これは、このごろ日本で企てられてゐる國勢調査の樣に政府の力で强制的にするといふ事は出來ない。何處迄も任意にせねばならぬので、寧ろ相談的に、子をもつ親にたのんで調査させてもらふといふことになる。しかし、實際この場合には、米國全體、到る所に支部を設けて、(これは主に國防協會の婦人部が引受けて)此處で大に努力したのである。それで實行上のことゝしては、各支部が何れも、中央政府から送つて來る一定の樣式に從つて調査したのである。卽ち、一九一八年四月より六月の二箇月にわたつて出來るだけひろく調査し、七百萬人の五歲以下の幼兒について結果を得たのである。七百萬人といへば米國全體幼兒數(五歲以下)の三分の二にあたるわけで、數としては先づその大なるものといはねばならない。

この結果として、如何なることがなし得るかといへば、先づ各幼兒が健康上如何なる狀態にあるかによつて、その母親に適當の注意をあたへることが出來る。また、その幼兒達の屬する村、又は區にそれぞれ注意して、其處に、特に、幼兒保護に必要なる施設をすることを勸告する。かくすれば、個人的にはその各兒の母親は、その子の健康を一層增進させる

ために努力するし、各村、各市、各區はそれ〴〵に適切な施設をするといふことになる。これによつて乳兒の死亡率を減じようとするのである。しかし單にこれだけの調査で、すぐに、その效果をあげるといふことはむづかしいのであるが、事實上、米國に於ては、最近十年間に各大都市に、既に、胎兒、乳兒、幼兒の保護のために努力する機關が設けられて居つたので、それに加へて、かゝる事業が始まつたために、一層この方面の刺戟となつたわけである。

この事業が如何に實行されてゐるかといふに、かのニウーヨーク市及びシカゴ市に行つて見るとそれはよくわかるのである。失づニウーヨーク市には、母親相談所といふのが八〇箇所ある。その中六〇はニウーヨーク市立で、他の二〇は、私立團體の經營になるのである。

此處では、主として、生後一箇月から、一箇年の間及び更にその後二年間にわたつての、健康なる幼兒について、その健康を持續し、更にその健康を增進するといふ事に力をつくすのである。卽ちニウーヨーク市にある六〇の市立相談所には、各所に何れも醫者と、看護婦とが居る。醫者は、一週に一度乃至二度その相談所に出張してゐる。この日に、母親はその幼兒を此處へつれて來て、先づ第一に、看護婦の手で、身長、體重をはかつてもらひ、次に醫者に、健康狀態を査察してもらふ。そしてその健康兒が如何にせば、その健康を持續し得るかの注意をうけ、又健康といつても、少しよわいやうな子は、どうすれば發育充分になるかを、よく相談する。そして原則としては、母親は一週に一回は必ず此處にその子供を連れて來て、査察をうけ、相談するといふことになつて居るが、實際は、一箇年に二十回もしくは三十回ぐらゐ來る割合である。かくのごとく、公私を通じての相談所で取扱ふ乳兒は、ニウーヨーク市だけで、實に七萬五千人(これは延べ人員でなくて、實數、卽ち一人の子が何度來ても、それは一人と計へて)である。ニウーヨーク市で一箇年に生れる子供の數は十二萬人と算せられてゐるから、その中の七萬五千人――これは何れも健康兒であるが――一箇年二十回も相談所の注意をうけて、その有する健康を、一層維持增進して行くといふ事は、實に數の上でも驚くべき好成績といはねばならぬ。十二萬人の中、病兒はこの相談所へは來ないわけであるから、

健康兒で、相談所に來るべき必要の子供等は殆ど來てゐるといふことが出來る。この結果として、乳兒の死亡數が、ニウーヨーク市だけでも、年々減じてゐるのは明らかなことである。

十數年まへは、百分の一四乃至一五であつたのが現在では、百分の九乃至八・五の割合をしめしてゐる。且亦、この相談所に來た子供の死亡の割合は、一四〇人の中一人を越えぬといふ狀態で、實に大都市におけるかゝる成績は、他に類のないことであるしかも、生後一箇月にみたぬものは、相談所で取扱はぬわけであるから、死亡が一四〇人中一人にみたぬといふことは、やがて米國における乳兒の死亡を餘程の程度まで減じ得ることを豫想せしめる。徹底的にすればかゝる結果をえられるものである。

扨、相談所の仕事としては、單に一週に一度だけ母親が子供を連れて來て査察をうけるといふばかりではなく、此處に屬する看護婦が毎日、午後、自分の受持の區域内の家庭を訪問して、家にある子供の狀態をよく視察して、それ〴〵に、必要な注意を與へるのである。かくのごとく、一方には醫者からいろいろ親切に注意してもらひ、また他方には家庭におけるこまかい注意を看護婦からうけるので、母親は實に安心してその子の健康のための、いろ〳〵の取扱ひ法を敎へられ、之を實行する。これによつて、乳兒、幼兒の保護は、餘程、徹底的に行はれるわけである。

看護婦といふことについて、序に一言しておきたいと思ふ。看護婦の中で小學校に屬する卽ち學校看護婦は、ニウーヨーク市だけで二百三十人居る。彼等は平素は、各〻學校に於て兒童の保健のことに奔走して居るが、休暇の時には(卽ち夏期、七月、八月の兩月のごとき)何れも母親相談所に屬する看護婦をたすけて、これらとゝもに、ニウーヨーク市の細民地區全體を訪問する。そして、健康乳兒の健康維持とその增進とをはかり、また、この場合には、病兒をも勿論世話するので、その恢復のために相當の方法を講ずるのである。ニウーヨークに初めて母親相談所の設けられたのは、凡そ今から十年程まへであるが、佛國におこつたのは、これよりもふるく、一八九〇年卽ち今から三十年もまへである。しかし、後からおこつたニウーヨークの相談所の働きは、目覺ましいものである。

シカゴ市には、母親相談所は公立が少くて私立が多いのであるが、その、幼兒保護の上に力をいたす事はニウーヨーク市におけるものと少しもかはらないのである。しかも、上述の健康乳兒の家庭内の生活をよくさせるために看護婦が、家庭を訪問する事や、母親に對するいろ〳〵親切な忠告にいたつては、その徹底的なること、實にニウーヨーク市にまさると云ひ得るかと思ふ。乳兒の死亡も、もとより次第に減じて行くが、シカゴ市におけるその割合は一〇〇分の一一位である。

ひるがへつて、我國における乳兒の死亡率は如何といふに、ニーウヨーク市及びシカゴ市に比較的近き關係にある都市は大阪市であるが、同市における乳兒死亡率は、實に一〇〇分の二三乃至二五である。堺市に於てはこれ以上の狀態である。世界に於て、最も、乳兒の死亡率の高いのは、オーストリアと我が日本とである。しかも、オーストリアの方は年々死亡乳兒數が減じつゝある。嘗つては、獨逸もこの率は高かつたのであるが、最近十年間には著しく減少したのである。しかるに、我國のみは年々この率が高まるばかりであるといふことは實になげかはしい次第である。國家のため、誠に不幸であるといはざるを得ない。米國に於ては、既に各都市における乳兒、幼兒の保護事業が餘程、徹底的になつてゐるのにその上に、尙、上述の樣な Children's Year といふやうな年を設けて、皆の注意を集めるのであるから、死亡率は減少するばかりである。我國にては乳兒死亡の增加は實に著しいにも拘らず、相談所ともいふべきものは一二を數ふるほか、見るべきものがないといふことは誠に遺憾なことである。我國においても、乳兒の死亡には、母親の無智に基因するものが、なか〳〵多いといふことは、いふ迄もないことである。そしてまた、子供は、元來母乳で養育するといふことが大に乳兒死亡の數を減ずるといふことは、今や、一般に認められてゐることであるが、幸にも、我國は、ほとんど習慣的に母乳哺育を實行して居るので、これは實に、我國の誇ともいふべきである。外國では、母乳哺育といふことをあまりせぬので、近來は奬勵金までも出して、之をすゝめておる位である。我が國に、この母乳哺育といふ良習あるにも拘らず、尙ほ乳兒の死亡率が高いといふことは、つまり、母親の無智、また貧困の然らしむる

ところと云はねばならぬ。しからば、この方面にまた、力をそゝぐことが必要である。一方、細民の收入の增加をはかるとゝもに、他方には、母親の教育といふことが大切である。卽ち、母親相談所のごとき設備が社會的に增設せられんことは、目下の急務であると思ふ。そして、專門の醫者につき、看護婦について健康兒の健康の持續と、增進について相談するといふことは、實に子をもつ母親にとつて、どんなに力になることかしれない。

近頃、東京社から出る婦人界といふ雜誌が、育兒その他のために、特に、相談欄をもうけて、丁度母親相談所の樣な仕事を、紙上で試みてをるやうであるが、これは、蓋し時機を得たやりかたといへやうと思ふ。中流階級の母親達の不注意や、知識の缺陷を、幾分おぎなふことも出來やう。

日本が、ことに、中流社會の人達に於て、幼兒取扱の知識がとぼしいといふ證據は、幼兒の死亡數は實に英、佛のそれに比較すると、殆ど二倍であり、その多くが胃腸病のためといふことでわかる。卽ち貧なるが故に榮養不良、死にいたらしめるのでなくむしろ、食べさせ過ぎや、食物選擇上の不注意からまねく死が多いのである。

かく考へて見ると、母親相談所、或は婦人雜誌にこの欄をもうけること、或は看護婦の家庭訪問などによつて、この缺を補ふことに極力、力を致したいものである。

此處には主として、乳兒保護について申上げたのであるが、乳兒以外の保護事業については、また機會を得てのべることゝする。

（談話――未校閲――文責筆者）

○極端なる自然の制裁

いたづら子が手當り次第物を壞す、しかし、只之に對して怒つてはならぬ。品物の方を手のとどかない所に片附けるがよい。もしも子供が自分に必要な物を壞してしまつたら、もう、同じ物を與へないがよい、そして「壞して不便になつたと」云ふ事を自然に感ずる樣に仕向けるかよい。例へば子供が自分の室の硝子を壞したら、晝も夜も風が吹き込むまゝにして置くがよい、その子供が風邪をひくだろうかなどと心配しないで。何故なら、子供が自分で氣をつけると云ふ事を學び「壞して困つた事になつた」と悟る事が出來る事は風邪ひく位な些事にはかへられない大切な事であるから。（エミール）